

1 低学年ブロック

(1) 2年生授業実践の取組

第2学年2組 算数科学習指導案

平成28年 2月24日(水) 第5校時
 授業者 教諭 山本 明彦
 場所 2年2組 教室
 児童数 男子20名 女子13名 計33名

1 単元名 図を使って考えよう


2～6 略

7 本時の学習指導(4/7時)


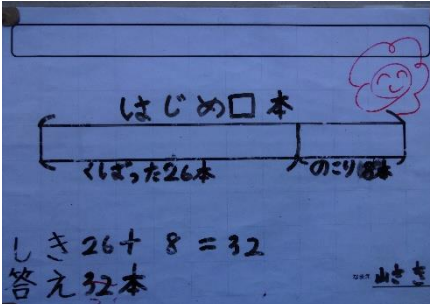
(1) 目標

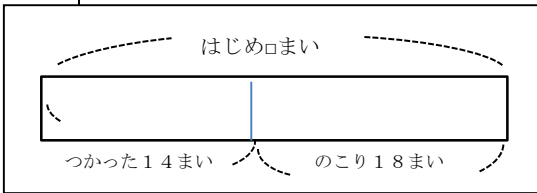
○減法逆の加法(未知数が先に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。(知識・理解)

(2) 展開

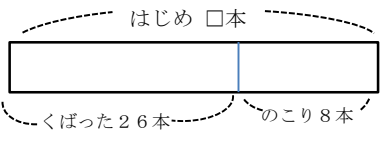
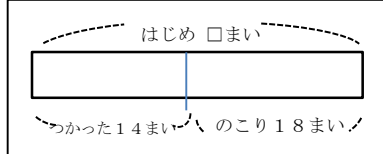
学習活動	主な発問(◎) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点(○) 評価(◇) 手だて	時間
1 問題を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>問題 ジュースが何本かあります。 26本くばったので、のこりが8本になりました。 ジュースは、はじめ何本ありましたか。</p> </div> 	○実際に動作を行い、最初に入っていたジュースの本数がわからないこと、配ることによって減っていることを確認する。	3
2 問題の場面をイメージして、見通しをもつ。	◎わかっていること、聞かれていることはなんですか。 ・ジュースが何本かある。 ・26本くばった。 ・のこりが8本になった。 ・聞かれていることは、はじめに何本あったか。 ◎ジュースのはじめの数は何本にすればいいんだろう。 ・わからない数は□にする。	○問題文でわかっていること、求めることに線を引くようにする。 ○問題の中で、はじめにあったジュースの数が未知数である□になることを確認する。 ○はじめの数が全部の数であることをていねいに押さえる。	5

<p>3 課題を設定する。</p>	<p>課題 図にあらわして考えよう。</p>	<p>2</p>
<p>4 自力解決をする。(シンキングタイム)</p>	<p>◎まずは、図を書きましょう。図がかけたら、式と答えも書きます。</p> <p>しき $26 + 8 = 32$ 答え 32本</p>	<p>○全体となるテープだけが書かれている図を使い、書き込みをして完成させる。 視点2 一手だて②</p>
<p>5 考えを伝え合う。(伝え合いタイム)</p>	<p>◎となりの人とペアになって伝え合いをします。図と式と答えの順に話しましょう。</p> <p>伝え合いタイム</p> <p>①自分の考えをわかりやすく伝える。 ②自分と同じ考えかどうか、考えながら聞く。 ③気づいたことを伝え合う。</p> <p>お話を図であらわすと・・・</p> <p>わからないことがはじめの本数だから...</p>	<p>○問題が解けた児童は、発表の準備をさせる。</p> <p>○解決が進まない児童には、算数コーナーの既習事項を活用するように支援する。 視点1 一手だて②</p> <p>○図で迷っている児童には、どこが全体となるのかを確認させる。</p> <p>○式で迷っている児童には、図から式を考えるよう支援する。</p> <p>◇場面を表したテープ図を基に、減法逆の加法の問題を解決することができる。 【ワークシート】</p>
<p>伝え合いのポイント</p>	<p>○よい伝え合いとなるように意図的にペアを編成しておく。</p> <p>○話すときのポイント、聞くときのポイント、気付いたことを話し合うことを児童と確認する。</p> <p>○式とテープ図を指し示しながら関連して説明させる。</p> <p>○思考を整理して話すためにキーワードを確認する。</p> <p>①問題と図をつなげる言葉 ②図と式をつなげる言葉</p>	<p>4</p>

<p>6 全体で練り上げをする。 (かかしタイム)</p>	<p>◎みんなに自分の考えを発表しよう。</p>  <p>(ホワイトボードを使って自分の考えを説明する)</p>  <p>(ホワイトボードの児童の考え)</p> <p>◎ジュースを配る場面だから引き算のようだけど、本当に足し算なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のこりの数じゃなくて、はじめの数が聞かれていることだから足し算になる。 <p>◎問題の場面を式であらわすことができるかな。</p> $\square - 26 = 8$	<p>○話しているところを指差しながら説明するようにする。</p> <p style="text-align: center;">視点3 一手だて①</p> <p>○ワークシートの言葉を使ってわかりやすく自分の考えを説明させる。</p> <p style="text-align: center;">視点3 一手だて②</p> <p>○ホワイトボードを活用し、部分と全体を指し示しながら説明させる。</p> <p>○全体での説明を繰り返し行い、考え方が定着するようにする。</p> <p style="text-align: center;">視点3 一手だて③</p> <p>○問題を図にして、図を基にして演算決定していることを確認する。</p> <p>○どうしてその図にしたのか、どうしてその式になるのかをはっきりと示しながら、説明させる。</p> <p>○よりわかりやすく問題場面を表しているテープ図について考えさせる。</p> <p>○足し算の式で答えを出せる理由を確認し、理解を深める。また、問題場面は引き算の話であり、□の式で表せることを考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">視点3 一手だて③</p> <p>○□の式で問題場面を表すことに触れ、3年生の学習へとつなげる。</p>	<p>10</p>
<p>7 まとめをする。</p>	<p>◎みんなで今日の学習をまとめていきましょう。どのようにしてはじめの本数を求めましたか。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 図を見てぜんたいをもとめるときは、2つのぶぶんを合わせてもとめる。</p> </div> <p>◎今日、図を使って問題を解いて、図があつてよかったと思ったことに◎をつけましょう。</p>	<p>○児童の言葉で黒板にまとめる。</p> <p>○毎時間振り返りを行い、図のよさに気付かせる。</p>	<p>4</p>

	<p>図のよいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこをもとめるのかはっきりとわかる。 ・しきをまちがえない。 	
<p>8 適用問題に取り組む。(チャレンジタイム)</p>	<p>問題 おり紙が何まいかあります。 14まいつかったので、のこりは、18まいになりました。 おり紙は、はじめ何まいありましたか。</p> <p>しき $14 + 18 = 32$ 答え 32まい</p> 	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時での学習を生かし、問題場面を図に表し、立式し答えを求める。 ○かかしタイムでの説明の仕方を生かして、自分の考えの説明を行う。 ○図、式、答えの確認をする。
<p>9 学習の振り返りをする。</p>	<p>◎学習の振り返りを発表しよう。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図のよさに気付かせ、次時への期待をもたせる。

(3) 板書計画

<p>足し算と引き算</p> <p>ジュースが何本かあります。26本くぼったので、のこりが8本になりました。ジュースは、はじめ何本ありましたか。</p> <p>わかっていること</p> <p>はじめ □本 くぼった 26本 のこり 8本</p> <p>図にあらわして考えよう</p>	<p>児童の考え 児童の考え</p>  <p>図を見てぜんたいをもとめるときは、2つのぶぶんを合わせてもとめる。</p> <p>図のよいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこをもとめるのかはっきりわかる ・しきをまちがえない。 	<p>おり紙が何枚かあります。14まいつかったので、のこりは18まいになりました。おり紙は、はじめ何まいありましたか。</p> <p>わかっていること</p> <p>はじめ □まい つかった 14本 のこり 18本</p>  <p>しき $14 + 18 = 32$ 答え 32まい</p>
--	--	---

8 成果と課題

《成果》

- わかっていることを整理したことで、問題文を図にかくことができるようになった。
- 図を見て、正しい演算決定ができるようになった。
- 図の良さに気付き、図を使って考えるとわかりやすいという感覚が身に付いた。
- 自分で書いた図を使って、図と式、答えの関係を説明できるようになった。

《課題》

- チャレンジ問題では、数値や難易度など工夫をしていきたい。
- かかしタイムでは、低学年なりの練り上げの仕方を今後検討していきたい。